竹原市決算特別委員会

令和6年9月19日開議

審査項目

○ 集中審査

【教育委員会の一般会計・特別会計】

【建設部関係の一般会計・特別会計】

(令和6年9月19日)

出席委員

氏 名	出 欠
平 井 明 道	出 席
村 上 まゆ子	出 席
蕎 麦 田 俊 夫	出 席
下 垣 内 和 春	出 席
今 田 佳 男	出 席
山 元 経 穂	出 席
高 重 洋 介	出 席
堀 越 賢 二	出 席
川 本 円	出 席
道 法 知 江	出 席
吉 田 基	欠 席
宇 野 武 則	出 席
松 本 進	出 席

委員外議員出席者

氏 名
大 川 弘 雄

職務のため会議に出席した者は、下記のとおりである

議会事務局長 笹原章弘

議会事務局係長 木原昌伸

説明のため会議に出席した者は、下記のとおりである

職 名	氏 名
建設部長	岡崎 太一
教育委員会教育次長	沖本 太
教育委員会参事	大橋 美代子
建設課長	古川 芳民
都市整備課長	広近 隆幸
下水道課長	藤本 嗣正
総務学事課長	沖本 太
総務学事課人事管理担当課長	小早川 善伸
文化生涯学習課長	堀川 ちはる

午前9時54分 開議

委員長（今田佳男君） ただいまの出席委員は12名であります。定足数に達しておりますので、ただいまから第4回決算特別委員会を開催いたします。

本日は、教育委員会、建設部の集中審査に入ります。

それでは、レジュメに従いまして教育委員会から始めていきたいと思えます。

まず、教育委員会の歳入、63ページから107ページぐらいにわたりますが、歳入はまた一括で審議したいと思えます。教育委員会の歳入について質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、歳入を終わりにして、歳出に参ります。

131ページをお開きください。

131ページ、真ん中から少し下にあります市史編さん事業に要する経費について質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次に参ります。

269ページをお開きください。

269ページになります。真ん中から少し下にあります1番、バンブー体育施設管理に要する経費になります。1番について質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次に参ります。

277ページをお開きください。

真ん中から少し上にあります1番、町並み保存センター管理に要する経費。この1番について質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次に参ります。

289ページをお開きください。

教育総務費の教育委員会費になります。1番、教育委員活動に要する経費、それから2番、下のほうにあります2番、教科書採択に要する経費、これは291ページの上のほうまでつながります。この1番、2番について質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次に参ります。

291ページになります。

事務局費、2番、真ん中から少し下にあります一般事務に要する経費。2番について質疑のある方はお願いいたします。

大丈夫ですか。291ページ。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次に参ります。

教育指導費になります。

教育指導費、293ページからになります。上のほうから1番の特別支援教育に要する経費から2番、3番、4番、次の295ページに行ってコミュニティ・スクールの関係、それから6番、7番、8番、それから297ページに9番の理科観察実験アシスタントになります。この1から9までで教育指導費、質疑のある方はお願いいたします。

下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 293ページ、特別支援教育に要する経費でございますが、当初予算では教育支援体制整備事業委託料242万4,000円が計上されておりますが、これ執行されていないと思うのですが、このことについてお伺いをさせていただきます。

委員長（今田佳男君） 教育委員会参事。

教育委員会参事（大橋美代子君） すみません。特別支援教育に要する経費についてでございます。

当初、予定しておりました医療的ケア児に関する委託に関する242万4,000円、ここを計上していたのですが、この子が今中学校に在籍している生徒になるのですが、小学校のときの状況からいったら医療的ケアというところで日常的に導尿であったりという医療行為が発生することを見通してこの委託料を計上しておりましたが、この子の成長であったり頑張りというところもあって、自分でその辺りの活動、自立ができるようになり

ましたので、この医療的ケアというところの委託が発生しないということになりましたので、計上していた経費よりは大幅にここは予算が執行されなかったというふうに捉えていただければと思います。

以上です。

委員長（今田佳男君） 下垣内委員。

委員（下垣内和春君） この予算については、予算書の概要でしっかりうたってあって、要するに不登校児童生徒の支援とかグローバル教育の推進とかということでしたらしっかりやっていくというようなことで一応予算書の概要では書いてあるので、それがまたなくなるということ。今の答弁ではある程度のことは分かりますが、全体的に考えてそこらをしっかりやっていないといけないのではないかと私は思うのですが、その辺について今後どのように対応されるのかについてお聞きします。

委員長（今田佳男君） 教育次長。

教育委員会教育次長（沖本 太君） 委員さん御指摘された不登校児童生徒への対応でございますとかそういった学校教育内容の充実に関する予算につきましてはまた別個にありまして、先ほど参事が答弁申し上げましたのは、現在いる中学生の1人に医療的ケア、つまり看護師さんがその生徒に対してケアをする必要性を当初見込んで予算計上をしておりました。ただ、先ほど参事の答弁にもありましたようにその生徒の頑張りですとか成長とかそういうものがあって、そういった看護師による支援、手助けがなくても自分が自立してそういう自分の障害に対応するというのですかね、それができるようになったということで、この額が不用になったということで執行されなかったということでございます。不登校支援でございますとかほかの取組については、ほかの予算のほうでしっかり取り組まさせていただきますところでございますので、どうぞよろしく願いいたします。

委員長（今田佳男君） いいですか。

ほかございますか。

山元委員。

委員（山元経穂君） 同じ293ページの4、教育指導に要する経費の1番、会計年度任用職員報酬550万3,948円のところですが、これ、今年度から始まった事業でありまして、予算の概要を見ると、令和5年の、学校教育アドバイザーを設置するというところで不登校児童生徒への支援、グローバル教育推進への支援ということで書いてありますが、この実績というか、効果というか、そういうことを教えてください。

委員長（今田佳男君） 教育委員会参事。

教育委員会参事（大橋美代子君） 学校教育支援アドバイザーの効果という御質問だったかなというふうに思います。

令和5年に新たに教育委員会のほうにアドバイザーを設置しました。たくさん効果はあったのですが、大きく3つ述べさせていただきます。

まず1つ目、アウトリーチ型の支援ができるようになったということです。これは今までいろいろ取り組んできたのですが、学校や教育委員会だけでは、アプローチが難しい家庭に行って、訪問して、おうちの方とお話ししたりということがなかなかできなかったところがありますが、今回アドバイザーは学校教育にも知見がありますので、そういう意味で学校訪問からどういうアプローチをしたらこの子またはこの家庭にアプローチできるかというところをしっかりと考えていただいたので、現在、令和5年ももちろんなのですが、これまで手の届かなかった御家庭に行って保護者と話をしたりというアプローチができるようになった、これが大きな一つかなというふうに思っております。

2点目としましては、関係機関とのスピーディーな連携が可能になっております。なかなか教育委員会や学校だけでとっさに警察であったりとか医療機関であったり、あるいは福祉関係というところに連携するということ、少し時間がかかっていたところがありました。アドバイザーが瞬時にこれ、危険性であったり緊急性を要すると思ったら、すぐに福祉のほうに相談を行ったりというような関係機関との連携が円滑にスピーディーになったということが2点目です。

そして3点目は、この不登校支援であったりとか教育委員会としてやっていることの周知が充実したということが3点目です。これまではホームページで例えばわかたけ教室はこういうところですよというところはあったのですが、なかなか保護者の一人一人に届かなかったところがあります。この辺りを充実させて例えばチラシを配ったりとか機関誌、これは年3回今予定しているのですが、これは令和6年度からになるのですが、そういう困った保護者がSNSで引っかかるようにするようなこともあり、そういった機関誌を載せる、あるいは先日はタネットに出演させていただいてタネットでもアドバイザー御自身が話をするというのもありましたので、そういった意味では周知の充実も図れたのではないかなというふうに思っております。

以上、大きく3点述べさせていただきました。

委員長（今田佳男君） 山元委員。

委員（山元経穂君） では、その大きな3点から続けて質疑させていただきます。

まず、1番のアウトリーチ型支援、これ当然やっていかなければいけない、不登校の問題に関してはと思うのですが、学校訪問から自宅へということで連携を取ってできるということなのですが、これ実際自宅へ伺った数というのがどれぐらいかということと、2番目の関連機関への連携ということで警察に頼るような事態というのはどういうことかということと、3点目、周知が充実ということでありますが、これ、機関誌は次年度からということになりますけど、これでそれを見て問合せがあった数というのを教えてください。

委員長（今田佳男君） 教育委員会参事。

教育委員会参事（大橋美代子君） それではお答えします。

まず、1点目の家庭訪問の回数なのですが、実はこれ、わかたけ教室で話を聞いてくださいという方もおられますので、家にちょっと来てもらってはというような御家庭も含めまして年間で99回接見をしております。

2点目です。警察連携ですが、これはもちろん生徒指導事案があった場合は速やかに教育委員会が連携するという事になっておりますが、おうちの方がおられるのだけれども出てもらえない、要するに本人の安否確認がなかなかできないというような事案が発生しました。そういう場合にはもちろん家児相、福祉のほうも一緒にやっていくのですが、警察のほうにも少し連携を取ったという事案が1件ありました。

3点目です。問合せの件数なのですが、正確な把握はできないのですが、2件、私が今把握しているのは2件ありました。ホームページを見ましたとか学校の先生からこういうチラシがあってというような辺りでちょっとアドバイザーと相談したいのだけどというような保護者さんがおられましたので、そういう意味ではいろんなところに編み目を張り巡らせることでどこかで引っかかってくると、要するに支援を求めている方がここだなというのがキャッチできたのかなというふうに思っております。

以上です。

委員長（今田佳男君） 山元委員。

委員（山元経穂君） 最初のアウトリーチのところで99回の訪問があったと言っていますけど、実際それで不登校から改善された人数というのがもし言えるのだったら教えてほしいのと、今周知が充実という言葉がありましたけど、実際充実でいろんな努力をされていると思いますが、2件といえば2件しかなかったということですよ。だから、次年度から機関誌を配るということでもありますが、この2件というのはちょっと少ないのではな

いかなという気もするのですが、その辺についてお願いいたします。

委員長（今田佳男君） 教育委員会参事。

教育委員会参事（大橋美代子君） まず、2点目のところからなのですが、この2件が少ないかどうかというところは、ここで少ないですというようなことは言い切れないと思います。なぜなら、不登校というところはなかなか1回相談業務を行ったからといって改善するわけでもないし、見ている保護者の方々が例えば100人が見たときにそれを100人がそのまますぐアドバイザーのほうに連絡をするかといったら、やっぱり悩まれたりとかどうしようかなというように葛藤している保護者もおられます。そういう意味ではまだアクションはできないけれども、そこにこういう支援があるんだ、竹原のそこへ行けばここがつながるのだという保護者の情報としては、2件ではありますが、そこはしっかりとつながっているのではないかなというふうに思っておりますので、そういう意味では、ただ委員おっしゃるようにこれでは調査が少ない、まだまだ今からということは私たちも認知しておりますので、充実はしましたけれども、ではどういう方法でアプローチをすれば本当のSOSを持っている保護者の方々にキャッチできるかというようなところは、これからもいろんな方法は模索していく必要があるかなというふうに思っております。

委員長（今田佳男君） 改善した事例。

教育委員会参事（大橋美代子君） 改善した人数。それも先ほどの回答と、答弁と同じになるのですけれども、アドバイザーが支援をして、訪問をして、だから次の日に行けるようになったというようなことはなかなかやはりスパンが必要です。なので、それがすぐに人数に反映するかといったら、なかなかそこは難しいところもあります。ただ、今の現状でいきますと、アドバイザーの設置をする前よりはいろんなところがつながっている、あるいはここだったら声が出せるという保護者の方もおられますので、そういう意味では長期的なスパンで見たときにこの不登校に対する支援としては効果があったのではないかなというふうに思っております。

以上です。

委員長（今田佳男君） 山元委員。

委員（山元経穂君） 今、参事さんから答弁があったように、私もこの不登校の問題って一朝一夕に解決するものではないと思います。何回も出向いていかなければいけないというような話で、心打ち解けるまでがまず大変だろうし、打ち解けた後からまたどうやって

学校へ戻っていただくかというようなことでなかなか時間がかかることだと思います。周知のところで2件ということで、周知したけどそれをきっかけにすぐみんなが連絡するわけではないというのも、先ほど質疑しましたけど、そのことも同様にそれですぐ反応があることではないということも分かりまして、参事さんも言われたSOSの信号がそこから当たるかどうかということなのですけど、だったら逆に言うと参事さんも言われたのでお尋ねしたいと思いますが、そのSOSをこれからどうやって反映させるか。次年度、機関誌を配るといっても、結局は今までと同じ、チラシとかでやっているのと同じで、なかなかそれがSOSが届かない可能性もあるわけですよ。だったら、もう少し変わったアプローチの仕方もあるのではないのかなという感じがします。それとこれ、アドバイザー1人でしたかね。アウトリーチで実際やっていこうと思ったら、今も参事さんの答弁があったように99回尋ねられて、1人というのはやはり少ないのではないかなと。もし本当に不登校を解決するのだったら、やっぱりこれは予算を増額してでも取り組んでいって、本当に竹原市は不登校児童生徒をなくしていくのだという意味で増やしていかなければいけないと思うのですが、その辺についてお願いします。

委員長（今田佳男君） 教育委員会参事。

教育委員会参事（大橋美代子君） まず、1点目なのですが、委員さんおっしゃられるように今のところで十分とは思っておりません。今まだちょっと現在進行中でやっているところなのですが、この令和6年度の話になるのですが、夏休みの間、スマイルアカデミーというのを開いて不登校傾向の子供たちを集めて学習指導をしたりということをしているのですが、今年度は地域の方やしっかり保護者の方にもそれが分かるようにということで各地域の交流センターで行いました。なので、吉名の子は吉名に行き、大乘の子は大乘に行きということで、なかなかこのわかたけ教室1本で行くというのは地理的にしんどい子も、しんどい御家庭もあったので、そういう意味でそういうことをちょっと利用したい、アドバイザーがどういう話かちょっと相談したい、勉強をきっかけにちょっとその子とながりたいというようなことをするためには、一つこっちから一歩行こうということで地域交流センターでやってみました。そこの効果としては、地域の方が、交流センターの方も、こういうルールになっているという、学校が今こういうふうに動いているというのは分からなかったよというような、これもちょっと調整不足ではあるのですが、そういう声もいただきました。なので、学校やそういう関係機関の中に地域の方というようなところもしっかり巻き込みながら、そこで少しでもSOSが、小さなSOSでもキャッチできる

ように、そしてそれが教育委員会のほうや学校に届くようにというようなアプローチの仕方というところもチラシとかホームページ以外にもできるのだなということが分かりましたので、そういう意味でいろんな挑戦をしていながらこの醸成というところはやっていきたいというふうに思っております。

2点目なのですが、人員のところ、これは山元委員さんだけではなくていろいろな委員さんがそこはおっしゃってくれております。もう少し人数が要るのではないかと、いうところで、今後この不登校の児童生徒というところが人数的にも、あるいはここを利用する子供たちのニーズ、例えばちょっといろいろな支援が要るというような場合は、やみくもに人を1人増やすというよりは、例えばソーシャルワーカーであったりとか臨床心理士さんであったり、ある一定の心のケアができるような資格を持った方を1名配置する。こうすることによって、福祉で、今青年期のひきこもりというようなところもありますので、その辺りも一体的に、重層的に支援がいただけるのではないかなと思っておりますので、そういう意味では今後もしかしたらそういった人員をお願い、依頼していくということは教育委員会としてはあるかなというふうに思っております。

以上です。

委員長（今田佳男君） 山元委員。

委員（山元経穂君） 最初の周知のところ、地域の方を巻き込んでいくというのは、これはコミュニティ・スクールの考え方とも一致していると思いますので、ますます地域の方を巻き込んでいって、全体で学校というか生徒児童、子供を支えていくと、いったらいいですかね、そういう体制はこれからも努力してほしいと思います。

次に、人員のところですが、確かにソーシャルワーカーも必要なのかもしれませんが、必要であれば、この委員の中にも研修に行かれた方もいると思うのですが、やっぱりそういうプロの方、ソーシャルワーカーはプロではないとは言わないのですが、本当にそういうことを実績残したような人を多少お金を払ってでも雇うべきではないかなと思っております。最後これについてお伺いしておきます。

委員長（今田佳男君） 教育委員会参事。

教育委員会参事（大橋美代子君） ありがとうございます。

本当にこの不登校の子供たちの問題というのは多岐にわたりますので、そういう専門的なことであったりとかそのノウハウをしっかりと熟知している方を配置していくということは今後もあり得るかなというふうに思います。今現在、他市町のそういう教育支援セン

ターとの横のつながりも今つくっておまして、ほかの他市町ではどういったアプローチやどういう支援をしているかというようなところも今連携をしているところですので、そういったところの取組なんかも見ながら竹原市として一番効果がある、意図するというようなところの人材を確保していくというようなところも今後考えてまいりたいと思います。

以上です。

委員長（今田佳男君） ほかございますか。

堀越委員。

委員（堀越賢二君） 295ページの未来の人材育成グローバル化促進事業に要する経費の中でこちらのほうで1点お伺いたします。

予算ベースのほうでは図書の購入費のほうで計上をされていましたが、決算として計上されていないので、この理由についてお伺いたします。

委員長（今田佳男君） 教育委員会参事。

教育委員会参事（大橋美代子君） 通常、洋書を整備して図書費としてそこに計上していたところですが、ただ、これも先ほど下垣内委員のほうからありましたように見通しが甘いところがありまして、円安の傾向がちょっとかなりひどくなって渡航費であったり委託料というところが思った以上にかかってしまったというところもありまして、そういう意味で図書のほうは今回は断念ということにしました。

以上です。

委員長（今田佳男君） 堀越委員。

委員（堀越賢二君） 私は逆にそうではなくて、何かそれぞれデジタル機器を活用して購入ではなくて調べたりとかそういうのを活用したから図書費の購入費のほうで要らなくなったのかなというふうに思っておりました。予算のほうで47万円ということで科目間流用というか、それはそれで児童生徒たちが充実をした研修を行う上では必要なことだったのかというふうには思いますが、今後これは予算の計上のときにもなるのですけれども、以前は必ずしも購入をしなくてはいけなかったものが購入をせずにオフィシャルなものとしてきちんと活用できるというものが増えてくると思うのですよね。ですので、こちらのほうもしっかりとそういうものも活用していると思うのですけれども、さらに充実してそういう海外であれば洋書の購入というものでなくて、生徒のほうの先ほど言われたような研修の充実のほうに回していけるのかなと思います。今後の予算編成、予算においてのこ

とになりますけれども、そういったところも踏まえて検討する必要がこの部分に関してはあろうかと思いますが、この件についてはいかがでしょうか。

委員長（今田佳男君） 教育委員会参事。

教育委員会参事（大橋美代子君） この未来の人材のところの経費としましてはかなり大きい金額で予算化しておりますので、堀越委員おっしゃられたようにしっかりと見通しも持ちながら今後予算立てのところからしっかりと考えてまいりたいと思います。

委員長（今田佳男君） 堀越委員。

委員（堀越賢二君） 理科観察のほうも入っていますよね。297ページの理科観察実験アシスタントに要する経費、この中で1点確認をさせてください。

最近というか以前からありますけれども、実験等における学校内の事故ということによくニュースでも目にしたり見聞きをすることがあります。この万が一事故が起きた場合の補償等については、学校の、竹原市の全体、竹原市が補償を負うものだというふうには、教育委員会が負うものと考えておりますけれども、この中でもし万が一そういう事案があった場合にはしっかりと対応といったようなものが今現在できるのかどうかの確認をさせてください。少し所管が違うかもしれませんが。

委員長（今田佳男君） 教育委員会参事。

教育委員会参事（大橋美代子君） 今いろんなニュースの中でもそういう理科の実験途中にいろいろあったと、事故があったということが、うちも本当に竹原市内の学校ではどうだろうかと思いつつながらニュースも聞いているところでございます。万が一あってはならないのですが、そういった事故が起こった場合の補償というのは、今全児童生徒はスポーツ関係で、これ学校の体育の授業だったりというのもそうなのではございますけれども、そこでの保険に入っておりますので、そこはカバーできるというふうに思っておりますが、まずはそういう事故を起こさないというようなところを考えてまいりたいと思います。

以上です。

委員長（今田佳男君） 堀越委員。

委員（堀越賢二君） 授業内容も毎年というか進化をしていくと思いますので、これまで想定されていなかったものが想定されるような事案も今後起きてくるかもしれませんので、様々な想定をしながら安全に授業を行っていただく上で、また教える先生方のほうにも安心といいますか、よりいい環境で、いい環境という心配をしなくて生徒のほうだけ向き合ってしっかりとした授業をしていただくためにも、そういうものの様々なことを想

定しての担保といいますか、安全・安心の担保が今後必要になってくると思いますので、これは教育委員会だけのものではありませんけれども、全体的にそういったものが必要になってこようと思いますので、授業の安全、そういったようなものも今後さらに情報収集をしていただいて、今までのカリキュラム、また新しいカリキュラム、そして今までの慣れたところでこそ事故もまた発生しやすい状況にあると思いますので、十分気をつけてそちらのほうもしていただきたいと思いますが、そちらのほうの先生方に対する注意喚起についてお伺いをいたします。

委員長（今田佳男君） 教育委員会参事。

教育委員会参事（大橋美代子君） 先ほど申し上げましたように県内でも理科の実験中の事故というのがありました。県のほうからも注意喚起の通知は来たのですが、それよりも前に竹原市教育委員会はすぐにメールで各学校に注意喚起を促しました。先ほど委員さんおっしゃられたように安心・安全があつての学校生活ですので、その辺りのもちろん起こった場合の補償というところもある一方で、教員も若返っております。なので、実験のときにはどういうところに留意しないといけないか。これは体育の授業、どの授業でもそうなのですが、そういう若手の教員にしっかりとそこを研修していくという研修の機会も教育委員会としては設けていかないといけないなというふうに思っているのと、ここに計上しております理科観察実験アシスタントなのですが、1名配置しているのですが、この者は長年にわたって理科の専科、理科のほうもたけておりますので、そういう意味では各学校に行って準備の段階からどういうふうにやればいいかというようなところを若手の先生にも伝えるということもありますので、そういったような今までの経験や知見をしっかりと若手教員につなげられるというようなそういうシステムというところも教育委員会、併せてやっっていこうというふうに思っております。

以上です。

委員長（今田佳男君） 川本委員。

委員（川本 円君） 293ページ、教育指導に要する経費の1番、先ほど山元委員からも出ました会計年度任用職員の報酬のところでお伺いします。

内容は、同じく学校教育サポート支援事業のアドバイザー業務のことについてほぼほぼ山元委員が聞いてくださったので、違うところからちょっとお聞きします。

私も、何回か教育委員会にお茶を飲みに行くためにふらっと行くことがあるのですが、大概そのアドバイザーの方はデスクワークをしているわけではなく、ほぼほぼ出られている

という。話を聞くとところでいうと、昼夜問わず家庭訪問なり非常に忙しいというふうなお話は聞いております。しかも、今回の夏休みを使って教科を個別に教えるという、ここにはないカリキュラムも率先してやっていただいております。本当に頭の下がる思いであります。私も山元委員と同様に、人数的に増やしてもいいのではないかなど。1人でこれだけの学校をくまなく回る、または個別に家庭を回るということになったら、今の教師の労働時間云々かんぬんという問題も出ておりますけども、それを補完する大事な仕事でありますから、逆に言えば増やせない理由がないと思うのですよね。先ほど増やすよりどうのこうのというふうなお話がありました。だから、そういうお考えはまずないのか。ないのであるならば、これもうちょっと人件費上げてあげてはどうですか。安過ぎますよ。あまりにも専門性が高い業務をやってくださっているわけですよね。昔、教員をやられた方を充てがってやっておりますけども、非常に僕から見てもすごいスケジュールをこなしてらっしゃるなど。休みもほぼほぼない状態でやっている。ぜひとも上げてあげてください。上げられないのだったら増やしてください。もし増やせない理由があるのだったら教えてください。

委員長（今田佳男君） 教育委員会参事。

教育委員会参事（大橋美代子君） ありがとうございます。

本当に不登校の問題を川本委員にいろんな情報も教えていただきながら伝授していただいているので、いつも来てくださったら増やさないといけないよというふうに声もかけていただいているところですが、今先ほどの山元委員の答弁の中でも申し上げましたようにその辺りの人員をどうしていくか、もう一人増やすか、上げるかというようなところは教育委員会だけのコントロールにはならないところも正直ありますので、要望だったりとかその必要に応じてそこは経費を上げていくということは思っておりますので、全くつける気がないということではないです。

以上です。

委員長（今田佳男君） 補足しますか。

教育次長。

教育委員会教育次長（沖本 太君） 教育指導アドバイザーについては、御承知のとおり確かに校長経験があつてしっかりとした不登校児童生徒に対する取組に対して熱い思いを持たれた方に就任していただいて取り組んでいて、山元委員の質問でお答えさせていただいたようにいろんな効果が出ていると我々思っております。人件費の単価についてはいず

れにしても会計年度任用職員という形になりますので、会計年度任用職員を雇用するその制度の中でどの程度の単価が適正なのかというのは全体の中で整理していく必要があるかなというふうに思っております。それと人数的に増やせない理由はというところなのですが、この事業については全て一般財源のほうで賄っているようなところなのですが、国のほうでは本市が取り組んでいるようなこういった取組に関して、もっと充実を図る方向で国庫補助金とかの制度も今つくられているようなところもありますので、その国の制度に見合うような取組内容に合わせるというのですかね、その国庫補助金の活用ができるようでしたら、活用しながら人員を増やしていくというようなやり方もあるかなと思っております。

以上です。

委員長（今田佳男君） 川本委員。

委員（川本 円君） ありがとうございます。

新しい情報をいただいた。国庫補助金があるというのは、もう現在この時点であるのですか。

委員長（今田佳男君） 教育次長。

教育委員会教育次長（沖本 太君） 似たようなものがあるのですが、今の本市がやっているアドバイザー事業にがちつとはまるようなものではないので、活用できていないのですが、そこがちつとはまるようなら補助金の活用もあるかなというふうに思っています。

委員長（今田佳男君） 川本委員。

委員（川本 円君） 大体分かりました。

先ほど参事から出ましたけど、教育委員会としてはもっと手厚くしたり人数を増やしていきたいという思いはあって、財政課でしょうね、恐らく、財政課が首を縦に振らないということなのでしょうけども、それは逐次要望されているのか、いるのでしょうけども、やっぱり先ほどからずっと出ている必要性とかを考えて加味しても、どうしてもこれからこういった不登校とか、例えば学習障害を含めて、LDとかね、というのはやっぱり需要、需要と言ったらちょっとおかしいけど、増える一方、減る要素は全くないですよ、悲しいかな。だから、そういった人数で補足していくというお考えの下でやっぱり声を上げ続けていってほしいなという、これ私の要望です。

それとあと一点は、このアドバイザーを据えたと、令和5年度からやったというのは、

やはり私が思うにはSCHOOL “S” とかSSRとかわかたけ教室もそうですが、箱物はつくったのだけど、なかなか登録されている児童生徒さんが少なくて実際機能していないまでは言いませんけど、なかなか数値に表れない、目に見えない。だから、箱物よりかやっぱり人、人対人でやっぱり接触することによって何かしらの成果を得るというほうにウエートを置いているというふうに思っているのですね。だから、箱物やめろと言っているわけではないのですよ。そういう意味でもこれから物すごく重要なポストになってくると思いますので、ぜひとも財政課に勝ってください。お願いします。

委員長（今田佳男君） 教育次長。

教育委員会教育次長（沖本 太君） 財政課を悪者にしてはいけないので、ちょっと弁解もしないといけないのですが、この不登校児童生徒の今後の見通しについてはおっしゃられるとおり、増えることはあってもなかなか減ることは難しいかなとちょっと思っております。そこに対する対応として今回、令和5年度からこの教育指導アドバイザーを配置して、先ほど川本委員、SSRとかSCHOOL “S” とか、確かにSCHOOL “S” とかSSR、わかたけ教室というのは来てくれるのを待つ、そういった場所なので、そこにとどまらずにこちらからアプローチしていく考え方が必要ではないかなということと令和5年度から教育指導アドバイザーを配置したということがございます。この不登校対策としては学校復帰はもとより、社会的自立を促していくという、そういったことも目的となりますので、そのために教育指導アドバイザーの配置がいいのか、ほかの方法がいいのか、いろんな方法もあると思いますので、そういった方法も探りながら不登校対策として適切な取組につながるように今後も検討しながら進めてまいりたいと思っております。

委員長（今田佳男君） ほかがございますか。

山元委員。

委員（山元経穂君） すみません。295ページの8番、幼保小連携推進事業に要する経費、これ2年目だと思うのですが、今年度の実績等を教えてください。

委員長（今田佳男君） 教育委員会参事。

教育委員会参事（大橋美代子君） 幼・保・小の連携の連携教育に関する御質問だったと思います。

山元委員おっしゃられたように2年目になります。今年は3年目になるのですが、県の指定事業を受けておりました組織を立ち上げるというところを初年度の令和4年度にやっけてまいりました。令和5年度は、今度は令和6年度、要するに今後を見通して自走ができ

るような組織体制にするというところに重点を置いてやってまいりました。具体的に言いますと、最初は推進協議会を立ち上げて、こちらから年5回やりますということで参加者も募りながら、こども園の教員、また園長先生、そして小学校の1年生の担任の先生あるいはコーディネーター等を集めてやっていたのは令和4年度なのですが、令和5年度は今度は各ブロック、要するに全体を集めるのではなくて各ブロック、吉名のところ、忠海というふうにブロックに分けて、そこで少し小さいのですがその小さい中での研修というのを組んでいきました。これを充実させることによって、指定の事業が外れてもこの組織としてはしっかりと根づくであろうというところで令和5年度はやってまいりました。

以上です。

委員長（今田佳男君） 山元委員。

委員（山元経穂君） 確認なのですが、まだ事業段階には入っていないということですかね、令和5年度時点では。

委員長（今田佳男君） 教育委員会参事。

教育委員会参事（大橋美代子君） 事業の中身はしっかり充実させているところです。プラス組織体制として全体を集めて研修して充実を図るというよりは、むしろ各ブロックごとで、細かいブロックではあるのですが、持続可能な時間に研修の時間を設定して、例えば全体であったらどうしても3時からとか11時からとかというふうに市内の全部の先生方を集めるというのはなかなか大変なところもありましたので、それぞれのブロックごとで自走ができるようにすることになれば、今後指定事業が外れたとしても自分たちで、では今日3時に集まろうかという形で組織としては生き続けるという意味で、その組織づくりに重点を置いてまいりました。ただ、この第1期はやはり子供たちの学びを止めない、就学前の子供たちからしっかりと小学校につなげるというところの研修であったり、保育参観あるいは授業参観、そういったところは令和4年度からやってまいりましたので、今年令和6年度で3年目になりますが、その内容のところはしっかりと充実してきたというふうに思っております。

委員長（今田佳男君） 山元委員。

委員（山元経穂君） すみません。私の聞き方が悪かったのかもしれない。だから、事業はもうやっているということですよ。中身の充実を考えるとかということだったので、ちょっとどっちかよく分からなかったのです。

それでは、やっているということで続いて質疑させていただきたいと思いますが、さっ

き学びは止めないという話があったのですが、これ、早い段階から取り組んでいくこと、非常に大事なことですよね。本来の目的が、もしずれていたら申し訳ない、小1ギャップの解消とかそういうものも含まれていると思うのですが、最終的にどうやって学力につなげていくかというのが大きな課題だと思います。教育委員会さん、今、企画部と大きな話をしていると思いますが、最終的にはそこへ全てたどり着く問題だと思うのですよ。だから、早くから学力を上げる、もちろん人間形成も大事ですよ、早くから学力を上げていくことが必要だと思うのですが、その辺についてお伺いしたいと思います。

委員長（今田佳男君） 教育委員会参事。

教育委員会参事（大橋美代子君） これは本当に、小1ギャップというふうにおっしゃられました。そういったところの改善というところも、そこをカバーしていくというようなどころも一つ大きな効果としてはあります。学力につなげていくというところ、こども大事なところで、実は小学校の教員が、私も小学校の教員なのですが、なかなかこども園でやっている保育にどこに学びがあるのかなというところが正直ちょっと分からなかったり、お世話をしているだけかなというふうに認識がちょっと違ってずっと私も働いていました。ただ、こども園はこども園の保育の中で、子供たちにこういうところに気づかせて、小学校に上がったときにここがしっかりと学力につながるよという種まきをされた保育をされていました。なので、そういう意味で幼・保・小連携をするということは学びのスタイルをしっかりとつなげていく、要するに小1からぱんとゼロからスタートではなくて、今までこども園で育てていただいた力をそのまま生かしながらさらに学力につなげていくというようなところは、今回設置をして、この事業を立ち上げて、一番効果があったなというふうに思っておりますので、そういう意味ではそのつなげるというところ、学びや成長、もちろん学力というような力というところも含めて、今後も充実させていきたいというふうに思っております。

委員長（今田佳男君） いいですか。

ほかよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次に参ります。

297ページをお開きください。

真ん中辺にあります1番、奨学金に要する経費になります。1番について質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では次、小学校費の学校管理費になります。

297ページから一番下にあります1番、児童等健康管理に要する経費、次のページへ行きまして2番、学校運営に要する経費、3番、施設維持管理に要する経費、これは301ページにまたがります。小学校費、学校管理費について質疑のある方はお願いいたします。

松本委員。

委員（松本 進君） この学校管理費、小学校の299ページの学校運営に関わってちょっとお尋ねしたいのですが、中学校にも同じような予算が組まれて今まで聞いてきたのは、この学校運営というのは6,600いくら予算の執行というのは介助員の、今説明までしていただいたというのは承知しています。特にお尋ねしているのは、先生方の長時間過密労働をいかに解決していくかということでは伺っているのですが、基本的にはそういう先生方の労働条件の問題は国や県が第一義的には思っているというのは承知しているのですが、その上で竹原市として可能な取組をしないとなかなか先生の大変な状況、労働鬱の問題の解決というのは大変だなというのがあって、決算の資料にもここにちょっと出していただいていますよね、22ページに出していただいているのですが、この学校運営の経費という分では介助員という配置の必要性は知っているのですが、これ以外にこういったこの決算年度で22ページにあるような先生方の休憩時間の取得の問題とか下のほうは市自ら決めた働き方改革の問題等の取組の状況が載っているわけですから、この学校運営の予算が介助員だけの、必要性はいいのですが、それで先生方のこういった決算資料の22ページにあるような休憩時間の取得の問題、働き方改革の問題等々の現状は今どうなのかと、取組の現状はどうなのかというのをちょっと聞いてみたい。

委員長（今田佳男君） 人事管理担当課長。

総務学事課人事管理担当課長（小早川善伸君） 働き方改革についての御質問だというふうに受け取らせていただきました。

竹原市においては、ここ数年間、教職員の業務改善であったりとか会議の持ち方、グループへの活用、ICT教育の効果的な活用であったりとか、帳簿の記録の簡略化、勤務時間管理の適正化等々で取り組んできております。一長一短になかなかすぐには成果等は出ないのですが、令和5年度でいいますと教職員に対してアンケートを取らせていただ

いたのですが、子供と向き合う時間を確保するといったところでいいますと、これが目標を80%と捉えておりましたが、昨年度80.1%ということでやっぱり働き方改革の大きな目的はそれによってできた時間を子供たちとどう関わっていくか、そこにどう使っていくかというところだと思うのですが、ここの部分が目標を達成して、その時間を教職員の方々が確保できつつあるというふうには捉えているところは大きな成果ではないかなと思います。

あと、もう一つの指標であります時間外勤務時間の45時間以上を目標ゼロ人というところなのですが、これは御存じのとおり大変難しい目標であるのですが、ただここを目標に取り組まないといけないというふうには思っています。実際の数値のところは、残念ながら改善といったところは見れませんでした。令和5年度は16名というところですが、ただ、16名であります、もう一つの指標、これはお出ししていませんけれども、例えば月平均、45時間以上を超えた教職員の月平均でいいますと24.5人、これは令和2年度から比べるとマイナス7.1人です。また、年間率でいいますと15.8%で、令和2年度から比べるとマイナス0.5ポイントということで、45時間を超えている人数といったところはあまり変わらない、もう底打ちになっているかなと思いますが、一人一人の時間であったりとか年間を通しての人数であったりというところは少しずつ改善は見られている状況かなというふうには思っています。ただし、これはここまで学校や教職員、教育委員会が地道な取組の中でこういった成果も出てきているところでありますので、これは引き続き校長とも連携しながら、また研修等も含めて引き続き取組を進めていこうというふうに考えております。

以上です。

委員長（今田佳男君） 松本委員。

委員（松本 進君） 決算資料にあるような働き方改革の問題の分で、一つは月の45時間の問題を減らす取組ということがありましたが、今の残念なのは決算年度の資料では15.6人、45時間を超える分があつて、ここに書いてある資料を見ると今年度、令和6年度ではゼロにしますよというのが書いてありました。それで一つは、さっきいろいろ説明がありましたが、この長時間勤務を解消する、少なくするためには業務の見直しをして、先生方の本業の分のところに集中できる、あとはいろんな問題の分は対策を、人の手当を含めて先生方の業務を減らしていくということもあるし、加配によって人を増やすのですかね。竹原市として、教育委員会としてできる中の加配を取り組んで先生方の負担を

減らしていくというのは2つあると思うのですが、2つというかあると思うのですが、この15.6、16人をゼロにするというのは、市が考えている主な取組、人の配置とか予算とかあればお聞きしたい。

委員長（今田佳男君） 人事管理担当課長。

総務学事課人事管理担当課長（小早川善伸君） ありがとうございます。

業務改善の特に1つ目、職員の業務を減らすといったところではあるのですが、これも文科省から出ている3つのグループ分けというのがありまして、教員が主に担う仕事、教員ではなくてもいい仕事、教員以外が担うというところの3つのグループ分けを基に各学校でも取り組んでおりますし、市教委も具体的にどんなものがあるのかといったところも教頭を対象とした研修会等で進めているところですが、なかなかここまで取り組んできているところがあって新たな一手といったところはなかなか見つかっておりませんが、これも引き続き取り組んでいく予定です。

あと、市として業務を減らすためのということであれば、例えば学校司書教諭の2名配置であったりとか、先ほども参事からも回答させていただきましたが、理科観察実験のアシスタント、そしてICT支援、これは募集はしているのですが、今すぐ人材が見つからない状況です。また、部活動指導員を2名配置して、部活動を担当することによって教員の、主に中学校、義務教育学校の後期課程ではあるのですが、そういった教員の負担を少しでも減らしていく。また、これは県費に上がるのですが、スクール・サポート・スタッフといいまして授業の準備であったりとか様々な担任の業務、会計等も行っていくということで、これは令和5年度は増やしていただいて9名、9校に配置しているところですが、そういったところも、市だけではなかったのですが、さらに県費、公務者というわけにはいかないのですが、非常勤等を配置して教員の負担軽減につなげていこうというふうな取組は続けております。

以上です。

委員長（今田佳男君） 松本委員。

委員（松本 進君） そういった取組をぜひ実行あるようにやっていただきたいのですが、それともう一個、確認を含めて。

確かにこの決算でこれだけ6,600万円の運営費を執行して、それでその結果を聞いているわけですから、結果で決算資料にあるような先生方の自由に取られる時間の問題、自由に休憩時間を、この（1）のところは先生が自由に、休憩時間が自由に取れる問題の

アンケートをされて、大変驚いたのは自由に利用できるというのは29.2%しかない。あと下の分が、時々自由に利用できない日があるとか全く自由に利用できないというのが37とか、合わせれば7割ぐらいの休憩時間を自由に取れないといえますか、これやっぱり深刻な事態であって、そこはさっき言った業務量とか人の配置とか、ここはどうすればこういったきちっと休憩時間が取れるよというような対策があればちょっとお聞きしたい。

委員長（今田佳男君） 人事管理担当課長。

総務学事課人事管理担当課長（小早川善伸君） 教職員の休憩時間の自由利用というところだというふうに思います。これは、ここまで今までも御質問をいただいた中で実際にその実態把握であったりとかというところの御質問をいただいているところですが、昨年度教職員に対して休憩時間の自由利用についてアンケートを取ったところです。休憩時間というのは各学校の校長が勤務の割り振りをして校務運営規定にも明記し、周知しているところでもありますので、時間というところは各教職員は承知しているところです。ただ、その上でやはり自由利用といったところがどこまでできているかといったところが教育委員会も気にしているというか、ポイントだなと思いましたので、その自由利用の状況について教職員にアンケートを取りました。その結果が今見ていただいているところだと思います。教育委員会としては、おおむね自由に利用できていると時々自由に利用できない日があるというところを合わせて62%程度、90名というところでおおよそ自由利用できているかなというふうには思っていますが、ただ全くできていないと答えた教職員も38%、約42名ほどおりました。ここについては、自由利用ができない理由について聞かせていただきますと、ほとんどが勤務は命じられていませんが、休憩時間に児童生徒が相談に来てその対応をしたりとか、給食時間内になかなか食べれずに残って食べている子をやっぱりそのまま自分が休憩に入るわけにいかずに見ているであったりとか、あとはそのほか多かったところが、業務は命じられていないのだけでも、自分の業務を済ませてできるだけ早く退庁をするといったところを進めていくためにその時間を使って自分で業務を、休憩時間に業務を進めているといったところもありました。こういったところについては、まずは教育委員会もきちんと休憩時間を周知する、そしてその休憩時間に業務を入れないといったところは、この結果を基に校長へ再度指導したところですし、今後も指導していくところです。ただ、実態としてそういうこともありましたので、今後のところはまたこれも検討なのですけども、市費においてこういった休憩時間の、特に給食時間であ

ったりとかといったところをどのように市費で解決していくかといったところは検討が必要だというふうに思っております。

以上です。

委員長（今田佳男君） 松本委員。

委員（松本 進君） 休憩時間の取得の問題でいろいろ説明があつて、私は自由に休憩時間を利用できない理由のことは今触れなかったのですが、ここの中の確かにその他の中では基本的な授業準備の問題とか、あとは抜本的な人の配置でないと解決できないというのはこれを見た限りではあるし、こういった休憩時間が自由にできる、休憩時間がきちっと取得できるような体制を含めてぜひ早急に対応していただきたいということは指摘しておきたいというふうに思います。

委員長（今田佳男君） ほかがございますか。

川本委員。

委員（川本 円君） ちょっと委員長にお聞きします。

今の松本委員からの質疑なのですが、決算の参考資料を要求されて、それを認めたわけですよね。今、話を聞いていたら、参考資料の数字を引用してからそれはどうなんだこうなんでって、あくまでも決算審査をやっているのですから、参考資料の数字をとやかく理事者側に質疑されるのはおかしいと思います。それと、先ほど学校運営に関わることで労働時間についてお聞きしてと言っておられますが、当然皆さんも御承知のとおり国費とか県費で払われているわけですね、報酬については。それもやっぱりちょっと違うのではないかと思います。ちょっと整理していただけますか。

委員長（今田佳男君） 今、資料とか。

休憩します。

午前10時54分 休憩

午前10時55分 再開

委員長（今田佳男君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

今、川本さんから指摘があつたのですが、中身としていいと思つたので、止めませんでしたから。今のところ問題はないということで止めておりませんので、問題ないと思っております。

55分になります。10分間休憩します。

11時5分再開いたします。

午前10時56分 休憩

午前11時02分 再開

委員長（今田佳男君） では、休憩を閉じて再開いたします。

次に、小学校費の教育振興費になります。

301ページの一番下のほうにあります教材整備に要する経費、303ページの2番の教育研究会に要する経費、3番、教育振興に要する経費、1番、2番、3番について質疑のある方はお願いいたします。

松本委員。

委員（松本 進君） 教材整備に関する経費が、小学校の経費が1,139万4,000円強執行されております。そこで、あと保護者の負担がどうなっているのかということでは、決算資料の19ページに資料を毎回出させてもらっています。そこで、一つの例でいえば大乘小学校、これは小学校の一つの負担が月に、学級教材の保護者負担が月が1,606円、これは小学校。もう一つ、中学校でいえば竹中の例が3,080円というような資料があります。そこで、こういった私が毎回質疑をしているのは、実際問題こういった学級教材の中身をこれまで議論した中では副教材として、教科書は無償だけれども副教材はこういう保護者負担があるよということで取り上げてきました。この資料2の下のほうに、教育委員会の資料の中には義務教育の原則と負担を求める法的根拠ということをあえて指摘をされております。ですから、こういった保護者負担の問題、いろいろ学校給食とかいろいろあるのですが、ここでは教材費の負担の分であれば先ほども申し上げたような負担があるということで、主にこういった法律の分は先にあったような指摘がありますけれども、私がここで改めて聞きたいのは、一つは教育委員会としての子供たちにどう向き合うかという、政策的といいますか、そこが大きなポイントになるのではないかというふうに私思うのです。ですから、決算をしてみてこういった保護者の負担があるよと。あとは、一つは竹原市としても子育てとか教育とかいろんな政策的な中に学級教材費の負担、これはやっぱり保護者負担をゼロにしたほうがいいのかということを探しているという質疑なんですけど、そこらについて今後のことも含めてということになりますけれども、この保護者負担の解消というのが教育委員会としては、今後のことも子育て支援とかいろいろ含めてどういった認識なのか。今後の対応、それをちょっとお聞きしておきたい。

委員長（今田佳男君） 教育委員会参事。

教育委員会参事（大橋美代子君） 松本委員、いつも例年ここを聞いていただいているかなというふうに思います。ちょっと私も分かりやすいようにきちっとお伝えをしないとけないなというふうに思っております。

この教材費というところは、決算書にあります備品というところが、例えば各学校のホワイトボードであったりとかあいつたようなところはもちろんこの決算の中にも入っておりますので、そういったところで子供たちに十分な、先ほどありました安心・安全な学校生活ができるように備品等の修理であったりとか新しいものに替えるというようなところはやっております。今、御指摘のあるその19ページの教材費というのは、主たる教材である教科書、もちろんこれをもって子供たちにしっかりと資質、能力をつけていくのですが、この副教材という扱いで例えばドリル学習、漢字ドリルだったり計算ドリル、あるいは中学校におきましてはちょっと2,000円ほど小学校よりも高いのですが、これは社会科であったりとかというようになるとどうしても細かい資料が、教科書の中ではなかなか見えないところを資料集として使うというようなどころがありますので、この学級教材費というようなどころは個人が使うものという以上、やはり個人負担、保護者に負担していただくというような構えであります。なので、教科書というようなどころは無償でここにも書いてありますようにいくのですが、個人個人が使っていくというような辺りはやはり教材費としてこれからも徴収はしていくという方向ではありますが、しかし先ほど言われていたようにここが高額にならないように、例えばドリルはきちっと子供たちが定着できるような分量なのかとか質がどうなのか、もちろん値段も含めて急激にここが変わるようなことがないように、高騰することがないように中身等は必ず教育委員会が確認しておりますので、ここはこれからもしっかりと確認作業をしていきながら、なるべく過度の負担にならないようにというところは留意してまいりたいというふうに思っております。

委員長（今田佳男君） 松本委員。

委員（松本 進君） 今までにいただいた分の答弁と基本的に一緒なのですが、私が言いたかったのは、副教材、ドリルとか入れてもこれは教科書に準じて、例えば端的に言えばドリルがなくてもその子供の授業が進むのなら百歩譲ってもいいかも分からないけどという言い方もしましたけれども、現実問題としてはそういったドリル等の副教材がないと同じように子供たちの教育が実質的にできないということで、教科書は無償、こっちは有償という市の考え方は知っているのですが、これはやっぱり子育てを含めたいろんな

政策的な判断ではこの子供の子育ての支援と、教育も支援ということになりますけども、そういった面ではやっぱりこういった無償化を強く求めておきたいというふうに思います。

委員長（今田佳男君） いいですね。

ほかございますか。

次に参ります。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） 次に参ります。

次は、中学校費の学校管理費になります。

303ページ、一番下にあります2番、生徒等健康管理に要する経費、305ページに行って3番の学校運営に要する経費、4番の施設維持管理に要する経費、307ページに行きまして下のほうにあります5番の施設整備に要する経費、2、3、4、5になります。中学校の学校管理費について質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次は教育振興費になります。

307ページの一番下にあります1番の教材整備に要する経費から次のページに行きまして教育研究会に要する経費、教育振興に要する経費、1番、2番、3番になります。質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次に参ります。

社会教育費、社会教育総務費になります。

309ページ、1番、社会教育委員会議運営に要する経費、2番の二十歳の集いに要する経費、次行きまして3番、一般事務に要する経費、教育集会所管理に要する経費、それから5番を飛ばして次のページにあります6番、たけはらときめき講座に要する経費、1、2、3、4、6について質疑のある方はお願いいたします。

堀越委員。

委員（堀越賢二君） すみません、お先に失礼いたします。

たけはらときめき講座に要する経費、313ページになります。

これは令和4年度からの事業でありますけれど、予算決算のほうは減額、予算からすれば減額になっている。こちらの理由のほうは、減ったのかなということなのですから、減の理由のほうをお伺いします。

委員長（今田佳男君） 文化生涯学習課長。

文化生涯学習課長（堀川ちはる君） たけはらときめき講座に対する御質問でございます。

予算のほうを6万6,000円計上させていただいておりましたが、執行のほうを3万3,520円ということになっております。こちら、講師謝金のほうを大学の先生ということで前年度2回シリーズでやったものですから2回分を計上していたのですけれども、今回は先生との調整で1回の講座となったもので、半分になったものでございます。

以上です。

委員長（今田佳男君） 堀越委員。

委員（堀越賢二君） こちらのほうの講座への参加人数のほうを教えてくださいませんか。

委員長（今田佳男君） 文化生涯学習課長。

文化生涯学習課長（堀川ちはる君） 令和5年度におきましては、広島国際大学の健康科学部田中秀樹先生をお招きして「健幸」とストレス緩和のための睡眠法ということで、講座やテレビでも出演されたり、ためしてガッテンに出演されたりということで人気の先生でございました。当初募集を30人としていたのですけれども、人気ですぐに埋まってしまったものですから、会場の状況を確認して10名増やして40人定員で対応したところ、40名参加をいただきました。

以上です。

委員長（今田佳男君） 堀越委員。

委員（堀越賢二君） やはり皆さん令和4年度からしてきたということで周知のほうもできている部分と、やはり講師の先生によって随分違うのかなというふうに思っております。今後、今まで行ってきた生涯学習であるとかいろんなものをこうした外部の方を招聘して講座を開いてやるということで非常に新鮮味があって、受講される受講者の方も非常にわくわくして参加されたと思います。この参加者の方の要はどういう、皆さんが感じられて実生活に活かしていくかというのが非常に大切なことだと思いますので、参加者の方の感想などは聞いた部分で教えていただけたらと思います。

委員長（今田佳男君） 文化生涯学習課長。

文化生涯学習課長（堀川ちはる君） 毎回講座を行ったときに参加者にアンケートをいただいております。やはりおっしゃってくださったようにわくわくして次はどんなことがあるか楽しみだなということで、皆様の生涯学習の学びの場ということで令和4年度から講座を開催して、その場が提供できているかと思っております。年齢的には、ちょっとお仕事をされている方々が多くて忙しいのか分からないのですが、60代以上かなというところなのですけれども、やはり皆さん楽しみにしているよという声を聞いておりますので、そういったニーズ、どういった講座がいいかというのを毎年聞いたりしながら進めていきたいと思っております。

委員長（今田佳男君） ほかございますか。

ほかよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次に参ります。

図書館費になります。

313ページになります。図書館費、1番の自動車文庫に要する経費、図書館管理運営に要する経費、3番、図書館建設基金に要する経費ですね。1、2、3について質疑のある方はお願いいたします。

蕎麦田委員。

委員（蕎麦田俊夫君） 図書館管理運営に関する経費についてお伺いをさせていただきます。

まずは、管理業務としてどのような指定管理業務が行われたものなのかを教えてくださいたいと思っております。

委員長（今田佳男君） 文化生涯学習課長。

文化生涯学習課長（堀川ちはる君） 図書館管理運営に要する経費の5,340万4,030円のご質問だと思います。どのような業務を行っていただいているかというところなのですが、図書館の管理運営全般でございます。令和3年度から指定管理者制度を導入しておりますので、今年が、令和5年度が3年目となりました。それまで直営で行っていた図書館の業務を指定管理者、株式会社図書館流通センターをお願いしているものでございます。

以上です。

委員長（今田佳男君） 蕎麦田委員。

委員（蕎麦田俊夫君） ありがとうございます。

図書館管理全般ということで具体的な説明はいただけなかったということで、それから指定管理委託先から収支報告のようなものが担当として受けられておられるのかお伺いをいたします。

委員長（今田佳男君） 文化生涯学習課長。

文化生涯学習課長（堀川ちはる君） 指定管理者のほうからは毎年度事業終了後に事業報告書ということで収支報告のほうもいただいております。

委員長（今田佳男君） 蕎麦田委員。

委員（蕎麦田俊夫君） ありがとうございます。

それから、書籍の購入についてはどういうふうになされているのか教えてください。

委員長（今田佳男君） 文化生涯学習課長。

文化生涯学習課長（堀川ちはる君） 図書館の書籍の購入についての御質問でございます。

こちら直営時と同様に、直営時には市内の書店から購入しておりました。指定管理者制度に移行するときもこれまでの仕組みを活かしたものであるということで、現在も市内の書店から購入をしております。市内の書店にないものについては、別の出版会社から取り寄せるという購入の方法を取っております。

以上です。

委員長（今田佳男君） 蕎麦田委員。

委員（蕎麦田俊夫君） ありがとうございます。

それと、書籍の購入費、昨年度、今年度の購入費が分かれば教えてください。

委員長（今田佳男君） 文化生涯学習課長。

文化生涯学習課長（堀川ちはる君） 書籍の購入費につきまして、精算対象の費目としております。その方で800万円図書資料購入費として計上しております。これを精算対象で800万円を超えずに購入した場合は精算をとるという仕組みにしておりますけれども、今年度令和5年度は資料の購入費として800万3,550円ということですので、精算費は上がっておりません。

以上です。

委員長（今田佳男君） 蕎麦田委員。

委員（蕎麦田俊夫君） ありがとうございます。

図書館の管理運営に関しては今仮ということでございますけれども、市民からの要望もいろいろと多くございまして、私のほうにもいろいろ改善をしてほしいという声が届いておりますので、そういった市民の声をどういうふうに収集をされるおつもりなのか、それについてお聞かせをいただけたらと思いますので、お願いいたします。

委員長（今田佳男君） 文化生涯学習課長。

文化生涯学習課長（堀川ちはる君） 利用者さん、市民の声につきましては、指定管理者がアンケートを実施しております。内容につきましては、言われたように仮移転の状況です。手狭な状況の中、なかなか物理的な部分でもうちょっと待つてという意見も多くございました。こちら仮移転のものなので、限られたスペース、限られたところでやっただけだと思っています。中には買物がてらに行けて立地的にはいいよというお声もいただいております。庁舎の跡地のほうに図書館のほうを移転させるという計画もございまして、そういったところ、皆様の意見を反映したものを竹原市にふさわしい図書館になるように考えていきたいと思っています。

以上です。

委員長（今田佳男君） ほか。

堀越委員。

委員（堀越賢二君） 私のほうは、公用車の購入費のほうについてお伺いいたします。

こちらは新たに軽自動車の移動図書ということであろうかと思いますが、こちらが実際に稼働した時期についてお伺いいたします。

委員長（今田佳男君） 文化生涯学習課長。

文化生涯学習課長（堀川ちはる君） 令和5年度で移動図書館車、公用車として計上させていただきますまして整えさせていただきました。運用開始は令和6年度のスタートで、令和6年4月の一番最初の運行日に併せてスタートのセレモニーをしたところでございます。

以上です。

委員長（今田佳男君） 堀越委員。

委員（堀越賢二君） 町なかでも見ると非常にカラフルで、大きいものも非常に冊数も多くていいのですけれども、今の竹原市の道路状況ですとかいろんなものを鑑みたりすると、非常に軽自動車というのは有効なのかなというふうに思っております。あとは利用者の方から冊数に関して苦情があったりとか、それとも小さくなって使い勝手がいいよねとい

うような利用者の方の声があればお聞かせください。

委員長（今田佳男君） 文化生涯学習課長。

文化生涯学習課長（堀川ちはる君） 新しい移動図書館車の利用者の声ということなのですけれども、まず一番に絵本作家ヨシタケシンスケさんのイラストがとてもかわいい、そういう声が私のほうに届いております。冊数の部分での苦情というのは、私のほうには届いておりません。図書館のほうのスタッフからも、予約を受け付けるよと、インターネットで受け付けたものをお届けできるよと、そういう仕組みも恐らく周知をいただいていると思います。小型化したことによって、先ほど言われたように竹原市の道路事情、今まで行けていなかった皆実町のほうと吉名の毛木のほうにステーションを増やしましたので、そういったところで効果的に回れるのかなと考えております。

以上です。

委員長（今田佳男君） 堀越委員。

委員（堀越賢二君） それと、やはり大きいのは運転手さんの負担がかなり軽減できていると思います。なかなか大きいと、毎日毎日業務としてずっと運転しているということであれば随分違うのでしょうかけれども、そうではない中でなかなか大きな車の運行というのは大変なのかなと思いますし、今後の移動図書館の車の運転手の確保といったようなところもだんだんと問題が表面化してくる部分もあると思います。こういった中でこういった小型化をするということで、利用者の皆さんからも苦情ではなくてそういうおおむね好評といったような意見がありますので、これはさらに充実をしていく必要があるかと思えます。あとは、しっかりとそのニーズを取り込んで、ただ本を載せて走るというものだけでなく、新しい移動図書館の在り方というものも今後しっかりと検討していただきたいと思えますので、よろしく願いいたします。すみません、総括のようで、申し訳ございません。

委員長（今田佳男君） ほかございますか。

宇野委員。

委員（宇野武則君） 図書館ですね。2の管理運営、指定管理ですね、管理料。当時は7名だったろうと思うのですよ、職員は。館長は常駐されているのか、あれは市内の人間か、市外の人間か、この1点についてお伺いします。

委員長（今田佳男君） 文化生涯学習課長。

文化生涯学習課長（堀川ちはる君） 図書館のスタッフの人数でございますが、7人であ

ります。産休、育休等で異動等がございますが、7人で対応していただいております。館長につきましては、市内に在住されております。常駐しております。

以上です。

委員（宇野武則君） 市内。

文化生涯学習課長（堀川ちはる君） 市内に住んでいらっしゃいます。もともと出身は市外の方だったのですけれども、こちらに居を構えて住んでいらっしゃいます。

委員長（今田佳男君） ほかによろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次に参ります。

文化財保護費になります。

313ページ、真ん中から少し下にあります1番、文化財保護委員会に要する経費、それから2番、3番、それから次のページへ行きまして、ずっと下にあります4番の文化財保存事業に要する経費、これは次のページにまたがります。文化財保護費について質疑のある方はお願いいたします。

山元委員。

委員（山元経穂君） 3番の文化財管理に要する経費のうちで、315ページの18番、日本遺産北前船協議会負担金で予算も50万円で、もちろんこれ負担金だから当然決算も同額になると思うのですが、これに加入している、だから加入して何か事業というか、そういうことがあったのかということでお聞きしたいと思います。

委員長（今田佳男君） 文化生涯学習課長。

文化生涯学習課長（堀川ちはる君） 日本遺産北前船協議会負担金に関連した御質問です。

こちら50万円、委員おっしゃるように負担金ですので、市は50万円、町は10万円ということでお支払いをしております。活動といたしましては、令和5年度の段階で49自治体が加入しております。歴史的魅力や特色を通じて、我が国の文化、伝統を語るストーリーとして文化庁が認定されており、竹原市でも選定を受けております。令和5年度の特徴的な活動といたしましては、全国を通じて一般向けのオンラインセミナー、年間4回行っております。こちら竹原市の住民の方も何かこういうことがあればなということで興味を持たれたという御意見をいただいておりますので、情報が入り次第、ホームページのほうにアップをしております。また、子供向けのオンラインセミナーということで、こち

らは令和5年8月9日に8自治体が参加して、竹原市も参加をしております。子供さんに募集を募ったところ、竹原市では2名の参加をいただいております。そういったオンラインで全国の寄港地、船主集落のつながりをオンラインで学ぼうということでやっております。また、協議会に関してホームページのポータルサイトの管理であるとか学芸員のセミナー、こちらもオンラインとかでもセミナーもございますので、そういったところにも参加をしております。

以上でございます。

委員長（今田佳男君） 山元委員。

委員（山元経穂君） 少し関連的な質疑になって申し訳ないのですが、オンラインセミナーで子供のほう、6自治体で竹原市から参加2名だったと言って、ここから推定して、これだけで推定するのはちょっと失礼かもしれないのですが、いつときほど北前船、北前船と今言っていないような気がするのですよ。一時期、日本遺産になったというときには、結構市を挙げてという表現がいいかどうか分からないのですが、日本遺産に認定されたね。どうも北前船というのが、今どれほどの活動で市民に認知されているのか。今後本当に観光を増やしていったりとか竹原市の歴史文化を守っていくという意味では非常に大事なものであると思うのですが、その辺の見解についてお伺いしたいと思います。

委員長（今田佳男君） 文化生涯学習課長。

文化生涯学習課長（堀川ちはる君） 竹原市は令和元年5月に追加認定ということで認定を受けまして、認定のセレモニーということを酔景の小庭で行ったところでございます。当初よりもちょっとトーンダウンしたりしたのではないかと御意見も受け取りました。日本遺産に認定された構成文化財5つあるのですけれども、先ほどのオンラインセミナーのときも2名来られたのですけれども、すごく歴史に興味を持たれて構成文化財の塩の古文書であったり紙本著色絵屏風のレプリカを目の前にすごく感激して帰っていただきました。人数は少なかったのですけれども、喜んでもらえる子供さん、児童生徒さんいらっしゃったのだなということで思っております。

今後の展開につきましては、日本遺産というのは歴史、文化を伝えることを通じて地域活性化というところの目的に認定されておりますので、観光のセクションであるとかそういったところとも連携しながらしっかり伝えていきたいと思っております。

委員長（今田佳男君） 山元委員。

委員（山元経穂君） 参加された2名ってすごいそういうことに興味を持った子が参加し

たと。例えば私なんかお城が好きですから、そういうものがあったら参加するかもしれない。ただ、さっきの2回目の質疑でも言わせてもらって、今後、今答弁で地域活性化ということがあった。市全体としての広がりとしてどうなのかなと。北前船が日本遺産に認定されたということをどれだけの方が理解して、こういう町なのだという文化と歴史、よく言われる文化と歴史に誇りを持つ町ではないですけど、そういう意味合いでこれがどこまで広がっていているのかなというところがちょっと最近思うところがあるので、地域活性化に対してこれからぜひその意味では普及させていきたいということだったので、これ以上はお聞きませんが、本当にそう思われているのだったらそのようにこれから展開していただきたいと思います。

委員長（今田佳男君） いいですか。

ほかございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次に参ります。

美術館費になります。

317ページ、下のほうにあります1番の基金管理に要する経費、2番の一般事務に要する経費、これは次のページにまたがります。1番、2番、美術館費について質疑のある方はお願いいたします。

平井委員。

委員（平井明道君） 319ページの美術品保管委託料133万7,520円、今井先生の作品選定業務委託料69万910円についてお聞きします。

これ、今まであった美術品と今井先生の作品は、保管場所は一緒ですか、別々ですか。お教えてください。

委員長（今田佳男君） 文化生涯学習課長。

文化生涯学習課長（堀川ちはる君） これまで美術館で所蔵していた作品と今井先生の作品は別に保管をしております。ただ、まだ寄附を受けて選定作業を行わせていただいたのですが、現在今井家のほうに保管をさせていただいております。今年度中にどういった形で移動させるかということを整理していきたいと思っております。

委員長（今田佳男君） 平井委員。

委員（平井明道君） 関連でちょっとずれるかもしれないのですが、たくさん美術品をいただいたと思うのですが、あと池田コレクションもたくさんあると思うのですが

も、美術館の場所は決まったのですかね、まだ決まっていないのですかね。

委員長（今田佳男君） それはちょっと。

委員（平井明道君） 分かりました。では、大丈夫です。

委員長（今田佳男君） いいですね。

ほかよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次に参ります。

319ページ、文化振興に要する経費について質疑のある方はよろしくお願ひいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次に参ります。

保健体育費、保健体育総務費になります。

319ページの一番下のほうにあります体育施設開放事業に要する経費から2番、次のページの3番の行事運営に要する経費、4番の一般事務に要する経費になります。1番、2番、3番、4番、保健体育総務費について質疑のある方はお願ひいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次に参ります。

321ページになります。

一番下のほうにあります体育施設維持管理に要する経費、これは次のページにまたがり
ます。1番について質疑のある方はお願ひいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次に参ります。

学校給食費になります。

323ページ、1番の学校給食運営に要する経費、2番の施設管理に要する経費、これは325ページにまたがり
ます。学校給食費について質疑のある方はお願ひいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） それでは、特会に参ります。

教育委員会の貸付資金特別会計になります。

359ページをお開きください。

章書きになりますが、359ページ、特会の歳入一括で質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、最後になります。

361ページからですが、貸付資金特別会計の歳出になります。質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） それでは、以上で教育委員会の集中審査を終了いたします。

11時36分ですから、午後1時から再開ということで、午後1時再開。それまで、休憩いたします。

午前11時36分 休憩

午後 0時57分 再開

委員長（今田佳男君） 休憩を閉じて会議を再開します。

次に、建設部の集中審査を行います。

建設部の歳入、55ページから109ページにわたります。歳入一括で質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、歳出に参ります。

233ページをお開きください。

233ページ、下のほうにあります農業費の農地費、1番の農業用施設整備に要する経費、その下の2番の一般事務に要する経費、これは次のページにまたがります。これの1番、2番で質疑のある方はお願いします。233ページです。農地費、一番下のところ。

道法委員。

委員（道法知江君） 233ページ、農業用施設の整備に要する経費をお伺いさせていた

だきたいと思います。

当初予算では240万円ということだったと思うのですが、予算を下回っているこの理由と、それと実績をお伺いさせていただきたいと思います。

委員長（今田佳男君） 建設課長。

建設課長（古川芳民君） 農業用の修繕費のほうですかね。

委員（道法知江君） そうです。

委員長（今田佳男君） 114万700円。

建設課長（古川芳民君） こちらについて農業の維持と経営の安定を図る目的で農業施設の修繕料として水路の修繕ということで、水路の修繕や農道の修繕ということで支出しております。修繕2件で114万円を支出しているという状況です。受益を受ける農家の負担については、受益者負担金ということで今ある農業用施設については、農道については10%、水路についても15%という形で分担金をいただいて修繕を行っております。

以上です。

委員長（今田佳男君） 道法委員。

委員（道法知江君） もう一度、農業用施設整備に要する経費は全般的に、要するに当初の予算より下回っている主な理由をお伺いさせていただきたいと思います。

委員長（今田佳男君） 建設課長。

建設課長（古川芳民君） ここは修繕料とか原材料費とかの支出にはなってくるのですが、需要とか要望という数は少なかったというところはあると思うのです。その分の執行が少なかったということはあるかと思います。

委員長（今田佳男君） 道法委員。

委員（道法知江君） 要望が少ないということと、予算では計上しているわけですが、当初予算で。数字が明確に上がっている、240万円、範囲も決まって上がっている。明確な金額が上がっていることと要望が少なかったという分の整合性が取れないかなと思うのですけども。

委員長（今田佳男君） 建設課長。

建設課長（古川芳民君） 失礼いたしました。ごめんなさい。

こちらの予算では、不特定の修繕費として現在値として計上しております。要望とかニーズのあるものに対して応えていく形になるのですが、予算については一部電気代がかなり高騰したというので電気代のほうに流用しているというのがあります。ちょっと予算

で下回っているということがあると思います。

委員（道法知江君） 分かりました。

建設課長（古川芳民君） すみませんでした。

委員長（今田佳男君） ほかがございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次に参ります。

樋門維持管理費になります。

235ページの真ん中から下、1番、樋門維持管理に要する経費、それから次のページの緊急自然災害防止対策の2番、この1番、2番について質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では次、林業費に参ります。

237ページになります。

林業費の林業総務費、一般事務に要する経費、基金管理に要する経費、それから3番の林道管理に要する経費、1番、2番、3番について質疑のある方はお願いいたします。

堀越委員。

委員（堀越賢二君） 1点、林道管理に要する経費のところの草刈り委託料、こちらのほうが予算からして4分の1程度になっている、その減額の理由についてお伺いいたします。

委員長（今田佳男君） 建設課長。

建設課長（古川芳民君） こちらについては、林道の草刈りということで20万余りを支出しております。削減についてということで天候がよかったのでそこまで執行額が、少なかったのかなというのと、先ほど一部流用して燃料費に回すということもあります。

以上です。

委員長（今田佳男君） いいですか。

ほかがございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次に参ります。

林業振興費になります。239ページをお開きください。

真ん中の少し下にあります2番の治山事業に要する経費、下の3番の人工林対策、それから次のページの4番の里山林対策、2番、3番、4番について質疑のある方はお願いいたします。

道法委員。

委員（道法知江君） 239ページの人工林対策に要する経費1,298万5,578円ですが、これは令和3年度からの事業で森林の経営管理の事業だと思うのですが、令和3年度から本市の全体の森林面積に対してどの程度進捗があるのかということ、まず令和5年度までどの程度の進捗があったのか、どういったことが森林整備が行われたのか、まずお答えいただきたいと思います。

委員長（今田佳男君） 建設課長。

建設課長（古川芳民君） 森林環境譲与税の関係の質問だったと思います。人工林の整備ということで、集積計画とか意向調査とか、団体調査とかをしながら集積をしていって調整、管理していく流れになろうかと思えます。市全体でいいますと人工林が1,100ヘクタールほどございまして、全市域の約9%ほどになります。これまでの3年間の取組で約1ヘクタール前後というところが成果になろうかと思えます。こちらと引き続き森林環境譲与税を活用していって、活用できる森林は森の整備を進めていくという形になろうかと思えます。

委員長（今田佳男君） 道法委員。

委員（道法知江君） ごめんなさい。確認なのですが、第2次竹原市の緑の基本計画というのがあると思うのですが、それに対しての森林面積で、国有林もそうですし、あと公有林、市の市有林、これ明確に入っていると思いますけど、もう一度教えていただけますか。

委員長（今田佳男君） 建設課長。

建設課長（古川芳民君） 森林全体の面積については8,000ヘクタールはあって、その中で天然林が7,000ヘクタール弱、人工林は1,100ヘクタール程度というところで、ごめんなさい、手元の資料だけ市有林とか国有林面積とか、そこまで確認できていないのですが、市全体でいうと7割が森林になっているという状態は恐らく変わっておりませんで、そのうちが1,100ヘクタールが人工林という内訳になります。

委員長（今田佳男君） 道法委員。

委員（道法知江君） 市域の面積の68%を占めることだと思います。

では、それではお伺いさせていただきたいのは、令和5年度の所有者リストの作成というのが目的ではあったのかなと思うのですが、所有者リストの作成と人工林の管理、どのように令和5年度されたかお伺いさせていただきたいと思います。

委員長（今田佳男君） 建設課長。

建設課長（古川芳民君） 人工林の管理集積計画につきましては、持ち主を調べまして意向確認、意向確認して字界調査、隣接する境界の調査で市のほうに集積計画にいただけるかどうかというのは意向確認をした上で、3割ほどの間伐をして現況のヒノキとか植林しているような取組をしております。それから、今年度自体は0.3ヘクタールほどになっております。

委員長（今田佳男君） 道法委員。

委員（道法知江君） それでは、最後の質疑にさせていただきたいと思いますが、あと残り事業期間というのはどれぐらいで、残りはもう少し要るのかなと思うのですが、取りあえず令和6年度に対してということに分かれれば教えていただきたいと思います。

委員長（今田佳男君） 建設課長。

建設課長（古川芳民君） 令和6年度に関しては、令和3年度に本川水系を中心とした大規模な水害があったところなのですけれども、流域治水計画の一環として河川整備だったりポンプ場整備だったりいろいろ行っているのですが、多層的な取組の一つとしてため池の貯水能力の規模強化、その中の一つとして荒廃森林の整備ということで、森が本来持つ水資源涵養の規模とか、保水機能とかいうところを本川流域の中で整備をしていって、その中で環境譲与税を使っていくということを考えています。

以上です。

委員長（今田佳男君） 道法委員。

委員（道法知江君） 本川流域も含むのですか。

委員長（今田佳男君） 建設課長。

建設課長（古川芳民君） 昨年つくった、0.3ヘクタールの集積計画をつくったという状態です。その次に施工箇所として本川流域なども選んで施工していこうというふうを考えております。

委員長（今田佳男君） ほかがございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） 次に参ります。

次は、水産業費になります。

241 ページの一番下に漁港維持管理に要する経費、この次のページにまたがります。

1 番について質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） 次に参ります。

245 ページになります。

4 番、真ん中にあります4 番、工業団地に要する経費のうち、18 番の竹原工業流通団地送水設備工事負担金は除きます。4 番について質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次に参ります。

255 ページになります。

255 ページ、土木管理費の土木総務費、上のほうにあります2 番、用地業務に要する経費、その下にあります3 番、一般事務に要する経費になります。2 番と3 番で質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次に参ります。

257 ページになります。

道路橋梁費のうち、道路維持費で真ん中ちょっと上にあります1 番、道路維持補修に要する経費、それから次のページに行きまして一番上にあります緊急自然災害防止対策に要する経費、1 番、2 番で質疑のある方はお願いいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） 次に参ります。

次は、道路新設改良費になります。

259 ページ、真ん中のちょっと下にあります2 番、道路整備に要する経費、その下の3 番、県営道路整備事業に要する経費、2 番、3 番になります。質疑のある方はお願いします。

道法委員。

委員（道法知江君） 259ページの道路整備に要する経費、新設改良工事のことについてお伺いさせていただきたいと思います。

これは、忠海駅の自由通路のことだと思います。5年、6年として整備されると思うのですが、現段階の状況とか、まず現段階の状況をお伺いさせていただきたいと、5年、6年。

委員長（今田佳男君） 建設課長。

建設課長（古川芳民君） 忠海駅の自由通路につきましては、令和5年度に詳細設計をいたしております。業務関係上はJRとの調整とか、電気関係、通信関係の設計がございまして、その調整があつて令和6年度までの繰越して設計業務を行いました。現在は用地取得に向けてJRと調整をしておりますが、広島県の駐車場整備と併せて一緒に同時購入、同時取得を目指して調整しております、今県との調整を行っている状況です。間もなく次年度の基本協定を締結し、全体の対応を定めましたら来年以降、実施協定を結んで実施していくというような形になります。

以上です。

委員長（今田佳男君） 新設改良工事はいくら。

建設課長（古川芳民君） 新設改良工事の内訳ですかね。

新設改良工事6,800万円の内訳ということですが、委託費の中の内訳ということ。

失礼いたしました。この予算で申し上げますと委託料の中のは繰越しの中に2,300万円というのがあるのですが、この中に忠海施設の設計費が入って繰越しになっているという状態です。建設費はこの中には入っていないと、今回は今年度決算には入っていないと。ごめんなさい、そういう状態です。

委員（道法知江君） 分かりました。

委員長（今田佳男君） 今の道法委員、いいですか。

委員（道法知江君） いいですよ。

委員長（今田佳男君） ほかございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次に参ります。

次は、橋梁維持費ですかね、259ページになります。

1番の下のほうにあります橋梁維持補修に要する経費、2番の橋梁維持改修に要する経費、2番は次のページにまたがります。1番、2番で質疑のある方はお願いいたします。
よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次に参ります。

河川総務費になります。

261ページ、1番の河川維持補修に要する経費から2番、3番、次のページの上にあります4番の緊急浚渫推進事業に要する経費、1、2、3、4について質疑のある方はお願いいたします。

下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 263ページの緊急浚渫推進事業に要する経費、14番、維持補修工事2億209万1,100円の実績、また効果についてお伺いします。

委員長（今田佳男君） 建設課長。

建設課長（古川芳民君） 緊急浚渫事業債、維持修繕工事で令和5年の実績ですけども、施工箇所は5か所、大きいところで申し上げますと、吉名の平方地区遊水地の浚渫、毛木地区の浚渫です、毛木地区遊水地の浚渫工事。そして、福田の東川東谷線の土砂浚渫工事と築地地区です、これはポンプ場の悪水溜のほうの部分になりますけども、築地地区の遊水地の浚渫工事、吉名でいいますと城川の浚渫、田ノ浦川、竹原小学校の前の田ノ浦川の浚渫、大井の西ノ川の浚渫ということで14河川の浚渫を行っております。令和6年度も引き続き、今年が最終年度と緊急浚渫事業債の、すいません。

委員長（今田佳男君） 続けてください。

建設課長（古川芳民君） 失礼いたしました。

令和6年の予定ですけども、引き続き吉崎遊水地の浚渫と毛木川、毛木の遊水の浚渫、西ノ川の継続となります。ほか引き続き各地で12か所を予定しているという状態です。

失礼いたしました。よろしく申し上げます。

委員長（今田佳男君） 下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 令和5年度だけ聞こうと思って、令和6年度まで教えていただいてありがとうございます。ですが、令和5年、令和6年かなり浚渫工事をやっていただいて大変喜んでいただいておりますが、当然令和7年度からはこの国の交付金が入ってこないという状況があるので、今後そのことについて、浚渫はやはり計画的にやっていかな

いどうしても、今年台風とか大きいあれはないといってもどうしても土砂はたまりますよね。今後そのことについてどのように考えておられるか、お聞きします。

委員長（今田佳男君） 建設部長。

建設部長（岡崎太一君） 緊急浚渫事業債の今後の予定について御回答いたします。

緊急浚渫事業債につきましては、通常であれば一般財源で実施しなければいけない河川や遊水地などの土砂の撤去や樹木の伐採を特例的に地方債で対応できるようにしたものであり、本制度を活用して周辺にお住まいの皆様の安全確保に現在取り組んでいるところでございます。令和6年度までとされている緊急浚渫推進事業債につきましては、これまでも制度を継続するよう市長会等を通じて国に要望しているところでございますが、現在の制度の継続など国からの方針は示されていないのが現状でございます。引き続き、本市にとって必要な制度であるということであることから、本制度が継続的に活用できるよう広島県とも連携いたしまして要望等を行ってまいりたいと考えております。

以上です。

委員（下垣内和春君） 分かりました。

委員長（今田佳男君） ほかございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次に参ります。

港湾管理費になります。

263ページになります。1番、港湾管理事務に要する経費、それから2番、竹原港駐車場管理に要する経費、1番、2番について質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） 次に参ります。

265ページになります。

一番上にあります1、県営港湾整備事業に要する経費、1番について質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次に参ります。

都市計画費になります。

265ページ、下のほうにある2番、都市計画審議会に要する経費、それから3番、一般事務に要する経費から次のページに行きまして4番、5番、6番、その次の7番、8番、景観形成推進に要する経費、2番から8番、都市計画総務費について質疑のある方はお願いいたします。

下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 269ページ、景観形成推進に要する経費、予算案では竹原駅前エリアウォークブルビジョン、改定業務委託料5万円があったのですが、これ執行されていないと思いますが、この件についてお伺いします。

委員長（今田佳男君） 都市整備課長。

都市整備課長（広近隆幸君） ウォークブル推進事業の関係ですけど、こちらのほうは平成30年のほうにビジョンを策定をいたしまして、かなり今回駅前のSmile Parkと題しておりますが、そちらのイベント、今年は5回目となるわけですけど、かなり当初からお子さん方とか増えてくる中で見直しとかしております、この前竹原市のほうで主催でそういったイベントとかもしてきたんですけど、昨年度から地元のほうの推進協議会のほうを立ち上げまして、地元の商店街主催ということで決まっております、今後いろいろ参加者が増えている中で竹原中学生とかそういった地域に根差すまで、今後10年計画となっておりますので、必要な見直しということで、今年度以降見直しさせていただきたいと思っております。

委員長（今田佳男君） 下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 18番のウォークブル推進事業、補助金を出されています49万8,000円ですね。当然地元の方へ、そのほうへこういう補助金を出してやっていくということ、その実績と効果についてお伺いします。

委員長（今田佳男君） 都市整備課長。

都市整備課長（広近隆幸君） 49万8,000円というこちらのほう、先ほど申しましたとおり、今後主体を市のほうから地元のほうへ移行させていただくという、単年度、令和5年度一年限りの補助金ということで交付しております。その使い道ですが、日常的な回遊空間の創出というふうな大きな目標がありまして、そういったことで長期的にできる、使用できるということで有効に補助金として交付をいたしております。

委員長（今田佳男君） まだ、効果。

都市整備課長（広近隆幸君） 効果のほうにつきましてですが、当初から参加される人数

もかなり増加傾向にありまして、最も大きな効果といいますか、先ほど申したような関わっていただく地元の方とか以外にも同様の事業者さんでありますとか竹原中学校の生徒さん、そういったところで関わっていただく方が非常に多くなってきている。それから、一番この事業で目標としておりますのが、空き店舗の活用。どうしても空き地や店舗が多くて人が少なくなってきた、そういったことがありますので、店舗が活用されて人がにぎわえば、さらにこういった場所、エリアの価値が向上しますので、また店舗が増えてくる。そういったふうなことを目標としておりまして、これまで令和2年度から取組をしているのですが、4店舗、駅前商店街から本川通りに抜けて、具体的には生花店、履物店、介護福祉の事業所、それから美容院ということで計4店舗が出店しておりまして、今後またこういったにぎわいを創出する中で、またそういった価値を生み出すことを考えております。

委員長（今田佳男君） 下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 最後の質問になりますけど、今随時予算、店舗なんかをしっかりと利用していただくようなことをされるということなのですが、この事業に推進補助金等、今後またそういうのを出して活性化するためにやっていくのどうかについて、最後お聞きいたします。

委員長（今田佳男君） 都市整備課長。

都市整備課長（広近隆幸君） この事業ですが、当初から社会実験ということで市のほうで先導するような形で推進しておりますが、当初より地元を主体にして今後主体を移行していくというようなことはちょっとありまして、そうしたことで協議会のほうも立ち上げていただきまして、今後については令和6年度の市のほうでの予算が計上していないということですが、市としても連携して一緒に駅前の活用をはかっていくということでは連携をしていきたいと考えております。

委員長（今田佳男君） ほかがございますか。

川本委員。

委員（川本 円君） 同じところで申し訳ございません。ウォークブル推進事業のところでございます。

先ほども御説明があったように10年間かけてやる壮大な計画であります。3年目、5年目ですかね。当初の計画では、歩きたくなる商店街というネーミングで始められた記憶がございます。実際歩いているかどうかは別として、歩きたくなるというのがちょっと私

にはその当時理解できなかったのですが、ちょうど私も散歩をその辺りでするものですか
らよく必然的に歩かざるを得ないのですけど、人っ子一人と擦れ違ったことはありません。
課長、ちなみにあそこを歩きますか。歩きたくなりますか。

委員長（今田佳男君） 都市整備課長。

都市整備課長（広近隆幸君） 私も頻繁にはありませんが、店舗とかありますので、活
用させていただいております。

委員長（今田佳男君） 川本委員。

委員（川本 円君） 嫌みで言っているわけではなくて、本当に歩きたくなるというのは、
催し、年1回やるいろんなイベント事で人が集まって、わっすごいなという一過性のもの
ではいけないのですよね、恐らく、10年もかけるわけですから。最初にできた予想図、
こんな感じになりますとって絵コンテみたいなものをいただいております。それは、確
かにイベント事をやっているときはそんな感じになっているんですけども。10年後は
ああなるのですか、本当に。

委員長（今田佳男君） 都市整備課長。

都市整備課長（広近隆幸君） こういった取組を続けていく中で、いろんな人に関わっ
ていく中で、町なかの魅力を向上していったって、現状はまだなかなかそういった平日から人が
歩きたくなる、居心地がよくなるというところまで達成はしてありませんが、目標として
は目指していきたいと考えております。

委員長（今田佳男君） 川本委員。

委員（川本 円君） だから、くどいようですけど、歩きたくなるという抽象的な考え方
よりか実際どうなるかというのはやっぱり10年もやって結構な金額もかけているので
から、ほぼ半分近くは消化したわけですね。そこに、私が見る限りでは何か行き着かな
いような気がするのですね。ごめんなさい、せっかく頑張っておられるのに。店も新しい
出店も増えてきたというのはそれは事実ですから認めますけれども、この前からにぎわい
とは何ぞやという話も出ましたけど、確かに駅前商店街のにぎわい、確かにやってほしい
ですけど、祭事にこれからどんだん、年1回の祭事にこれだけずっと10年もか
けてやる必然性というのはありますか。目標値に達成できない場合はどうするのですか。

委員長（今田佳男君） 都市整備課長。

都市整備課長（広近隆幸君） 委員言われるとおりの一過性のイベントでそのときだけにぎ
わいというふうなものでなくて、日常的にも人が歩けるような場所にしていくというふう

なことで、年に1回の10月の第4週に計画しているのですが、そちらは皆さんに駅前のほうへ来ていただいて愛着を持っていただくとかそういったことを感じていただくというこの動機づけとしておりまして、今後またいろいろどういったやり方があるかというふうなことも地元の関係者と考えて、そういった魅力的な空間ということでいきたいと考えています。

委員長（今田佳男君） 川本委員。

委員（川本 円君） これ以上聞いても。どうでもこうでも10年やれと、そういうわけではない。

委員長（今田佳男君） 建設部長。

建設部長（岡崎太一君） ウォークブルについての御質問でございますが、ウォークブルにつきましては委員おっしゃられるように、なかなか人が滞留して集まっている状況まで至っているかということ、まだ現状ではそこまで至っていないというのが現状でございます。一方で、これまでの店舗の促進事業だとかそういったところ、結構全国的には珍しい取組というところもございまして、国交省など視察に来られたりそういったところの一定の成果も見られるところもございます。やはり今後5年、そのままどうするのかということもございますので、そこは少し我々としてもしっかり考えて、もう一つてこ入れできるなり、ソフト対策中心になるとは思いますが、しっかり検討してまいりたいと思っております。よろしく願いいたします。

委員長（今田佳男君） よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次に参ります。

公園管理費になります。

269ページ、下のほうにあります1番、都市公園管理に要する経費、それから271ページに行きまして3番、的場海水浴場に要する経費であります。2番、3番について質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次に参ります。

その下にあります1番、県営街路整備事業に要する経費、271ページです。1番、県営街路整備事業に要する経費について質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） その下、1番、駐輪場維持管理に要する経費。1番について質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次に参ります。

273ページになります。

上のほうにあります2番、新開土地区画整理事業に要する経費。2番について質疑のある方はお願いいたします。

松本委員。

委員（松本 進君） この事業が1億5,400万円超執行されているわけですが、当初の事業目的と、それとこの決算資料とあとこの成果といいますかね、事業効果そのものはどのようにお考えなのか、まずお聞きしたい。

委員長（今田佳男君） 都市整備課長。

都市整備課長（広近隆幸君） 新開土地区画整理事業ですが、道路、公園、水路等の公共施設の整備を問わず、面的にそこの宅地の区画形成をすることで側面的に居住空間とかそちらの整備をしているというので、その効果についてですが、現在令和5年度末で進捗率の90%に達しておりまして、様々について効果を上げているものと考えております。この間当初480人区域内に建物をかなり新築をされて、令和5年度末で純増の建物が208棟ということで区域内の人口も743人増えて、5年度末の人口が推定になりますが1,200人余りというところで人口の増加もみられております。それから、事業所、店舗の進出という点になりますが、こちらのほう、おおむね1,000平米以上の店舗ということですが10店舗進出していきまして、こちらのほうで281人の新たな雇用が創出され、そのうちの199人は市内の居住者であるというふうなことで今年度も調査を行っていますが、3年前と同じような結果が得られております。それから、財政的な面になりますけど、区域内の固定資産税というところで比較をさせていただきますと、当時未着手が平成11年度土地と建物に係る固定資産税と令和3年度末の資産税を各年度で比較したところは8,100万円の増額というようなことで、これは単年度ですので現在たった年数分ということでそのまま固定資産税に対する増収というふうなところにはつながっているの

だと思っています。主な内容としては以上でございます。

委員長（今田佳男君） 松本委員。

委員（松本 進君） これは決算資料という形で41ページをぜひ見ていただきたいのですが、今、事業効果はいろいろ述べられました。当初は平成8年9月に事業決定してということで38億円余りから始めて、7年で終わる事業が伸びに伸びて26年の期間ですかね、こういった期間がものすごく延びています。そして、事業費についても見ていただければ、当初38億7,600万円から6回の変更された後の事業計画、事業費というのは51億円という巨額な費用になっておって、それからその中の市の持ち出し分といえますか、市の負担に限って言えば、当初の計画では市の負担と市独自の負担があつてその両方を合わせた竹原市の持ち出し分というのですか、これが当初は12億7,400万円から第6回の変更では23億1,000万円というのは当初の計画より81%も増えているということで、逆に財源となるの保留地の処分というのは、これは御存じのように当初の計画では8億2,600万円だった土地を売って事業に充てるよという保留地処分金というようなことなのですが、これが今度は6回の変更の計画では3億7,300万円というような8億2,600万円から3億7,300万円というような保留地処分金も減っていると。これは地価が下がっているからということになるのですが、こういった長期のスタンスで見ると先ほど言った区域を限定した店舗が増えている、人がそこだけ増えているということは言われる、説明されましたけれども、その間の竹原市の人口の分というのは相当やっぱり、全体ですよ、竹原市の全体がやっぱり相当減っている、雇用の場も減っているということは明らかだと思うのですね。ですから、そういう中でこの巨額の投資に見合う、本来短期の流れだったものが二十数年前に26年間ぐらいですか、延長されている、この間事業費が膨らんで市の持ち出しが増えるという面から見たら、竹原市全体のプロジェクトですからそういった面から見ての事業効果というか、目的に対する成果というのは、私は今言われたようなことではないのではないかとというのがあつて、ちょっとその件について再度確認を含めてお尋ねしたい。

委員長（今田佳男君） 都市整備課長。

都市整備課長（広近隆幸君） 新開土地区画整理事業ということですので、先ほどこの区域内での効果を述べさせていただきましたが、まだ市全体でということになりますと総合計画でありますとかそういうことで様々な施策を展開していく中で行っていくということで、こちらのほうは新開土地区画整理事業ということで確かに延伸、延伸を重ねて言われ

ますように単独市費の持ち出しという地価の下落に伴います保留地処分金の減額というふうなことでかなり負担にもなっておりますし、長期間にわたって事業を継続していくということで地権者のほうにも迷惑をかけているような状況もありますので、現在計画期間であります令和10年度末の完了に向けて、一丸となって事業の完了に向けて取り組んでいきたいというふうに考えております。

委員長（今田佳男君） 松本委員。

委員（松本 進君） 今、私が言ったのは、言いたかったのは、スタートのときの事業計画で長期になっているよということで、これは単なる一部の部分的な分ですけど、竹原市全体から見たら巨額な費用になるし、人口減少を防止するよという最大な事業ではないかと私は理解して、当時はね、それだけの位置付けがあったと私は記憶している。ですから、そういった竹原市として大きな区画整理事業に対する全体の中での位置づけですからね。その区画だけの、今の区画整理だけの中での出入りというのは、確かに田んぼから商業地になっているわけですから一定の店舗とか住居というのは理解できるのですが、そこは全体から見たら竹原市に位置づけるプロジェクトといたしますか、そこから見たら事業効果の分がもう少し判断していただきたいということをちょっと指摘しておきたい。

委員長（今田佳男君） ほかがございますか。

堀越委員。

委員（堀越賢二君） 私、移転交渉のほうについて1点お伺いをいたします。

令和5年度中にどれぐらいの進捗があったのかをお聞かせください。

委員長（今田佳男君） 都市整備課長。

都市整備課長（広近隆幸君） 事業費ベースで1億2,600万円、これに区画整理事業費として執行しておりますが、事業費ベースでないところが経常的なものもありますので、総事業費51億3,200万円に対する事業ベースでいいますと1億2,600万円というふうなところで執行させていただきました。内容的には、建物移転補償、住家ということで人が住まれているということでこちらのほう全部で151棟あったのですが、現在5年度末の時点で残り5棟というふうなことになっております。それから、工事のほうも令和4年度からの繰越しでありますとか逆に6年度に繰り越した工事もあるのですが、道路でありますとか宅地の造成とか、一番広く造成したところが竹原中学校から朝日橋をこちら東側に入りまして左手、南側ですね、かなり広い面積3,000平米ぐらいの造成を行ったりしたということで、そういったことで令和5年度末の進捗状況、進捗率という

ことで90%を達成しております、今年度末、今年度の予算を執行することにより92%ぐらいの見込みとなっております。

委員長（今田佳男君） 堀越委員。

委員（堀越賢二君） ありがとうございます。

令和5年度中に移転交渉がどれぐらい進んだかという実のところをお伺いしたかったのですが、なかなか順調にということではないとは思いますが、民間の方の仲介といたしますか、そういうものもあり、少しずつ最終的な解決といたしますか、この事業を推進していくためのものが進んでいるものと思いますが、この移転交渉について以前からほかの委員さんからもありましたが、現在の移転交渉の体制というものはこういったような体制でその地権者の方との交渉を進められているのか、その点についてお伺いいたします。

委員長（今田佳男君） 都市整備課長。

都市整備課長（広近隆幸君） こちらの地権者数ということで申し上げますと349名が承知、転移させてもらってまして、令和5年度末の時点で35名が残っております。そのうち令和5年度から6年度にかけての工事等完了した方が8名いらっしゃいますので、現時点、6年度末では35から8名を除いた27名ということでそれぞれ交渉となっているところです。この27名が全て難航しているとかということではなくて、本当に難航している地権者というのは数名ということで、ここが突破できないためにその次の段階の関係しているところが移転とか工事ができないというふうな状況であります。基本的には交渉ですので、複数の職員の体制ということで、基本的には都市整備課担当者2名、工事担当、移転担当の事務の職員と技術の職員の2名が行うということになっておりますが、重要な案件、重い案件については当然係長、課長、部長というふうなことで、令和3年度には副市長がじきじきに交渉に伺ったというふうなことがありましたので、今後につきましてはなかなかこれまでのように交渉を続けながら、できる箇所をやって進めていくというふうなことがなかなかできにくい状況になっておりますので、こちらもギアを上げるといえますか、本当に終わらすというふうな意気込みで交渉に当たっていきたいというふうに考えています。

委員長（今田佳男君） ほかございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次に参ります。

次の273ページ、一番下のほうにあります下水道事業に要する経費、1番について質疑のある方はお願いいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君）では、次の275ページ、上のほうにあります下水路維持管理に要する経費、1番ですが、1番について質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君）では、その275ページ、その少し下にあります1番、景観道路・修景広場維持管理に要する経費。この1番について質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君）では、次は279ページになります。

住宅費の住宅管理費になります。真ん中辺の少し上にあります2番、住宅審議会に要する経費、その下の3番の住宅管理に要する経費、2番、3番に質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君）では、次に参ります。

281ページに参ります。

下のほうにあります1番、樋門維持管理に要する経費、これは283ページにまたがります。樋門維持管理に要する経費について質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君）では次、283ページになります。

上の方にあります1番、県営急傾斜地崩壊対策事業、それから2番の急傾斜地維持補修に要する経費。この1番、2番について質疑のある方はお願いいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君）では、次に参ります。

283ページです。

下のほうにあります、下から少し上にある2番の交通安全施設整備に要する経費、2番について質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次は327ページになります。

1番の上のほうにあります公共土木施設災害復旧に要する経費、1番について質疑のある方はお願いいたします。

下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 327ページ、公共土木施設災害復旧に要する経費の14番、災害復旧工事、金額が5億5,424万2,621円になります。予算現額では、工事としては7億7,000万円余りと計上され、繰越明許費が1億1,200万円ぐらいで、事故繰越も2,300万円あります。不用額が8,000万円余りありますが、その引いた金額が5億5,400万円ということでございますが、この復旧工事の実績と不用額の要因についてお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

委員長（今田佳男君） 建設課長。

建設課長（古川芳民君） 災害復旧事業の執行状況ですけれども、5年の決算の中には30年債の災害と3年債の災害があるのですけれども、30年債については5年度の決算で全てが完了したという状況でございます。3年債については60件ぐらいあるのですけれども、残り4件ぐらいで令和6年中に完成予定と見込んでおります。今、不用額8,000万円ぐらいあるということを出ているのですけれども、この中には補助債と単独債が両方含まれておりまして、単独債につきましては被災後数年たってから過年債という形で地元からの申請というのはかなり出ているという状況にあります。ある程度大枠を見込んで、単独債として対応できるようにしておったところもあって、それはそこまではなかったというところでかなり不用額がでている状態です。補助債については予算どおりで大体執行できている形です。

以上です。

委員長（今田佳男君） 下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 公共土木のあれについてはどうしても金額も太いし、そうすると不用額というのも当然こういうふうになると思いますけれども、その辺については今単独債とかそういう形のものの要因が大きいということでもよろしいのですかね。

建設課長（古川芳民君） はい。

委員長（今田佳男君） よろしいですか。

ほかいいいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次に参ります。

その下にあります農林水産施設災害復旧に要する経費、この1番、1番について質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次は港湾特会に入ります。

港湾特会、歳入一括で365ページになります。歳入一括で質疑があればお願いいたします。365ページになります。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、次に参ります。

港湾特会、歳出になります。一括で367ページになります。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） それでは、建設部で次は下水道事業会計になります。

資料は別冊になります。

よろしいでしょうか。

下水道事業会計については別冊になっていますが、歳入歳出一括にて質疑を行いたいと思います。下水道事業会計について質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） では、以上で下水道事業会計の集中審査を終了いたします。

以上で建設部の集中審査を終了いたします。

今回は、24日火曜日10時から総括審査を行いますので、各位におかれましては質疑の準備をお願いいたします。

審査方法について再度確認をいたします。

一般・特別企業会計を一括、1日間の枠で行います。事前通告方式で、通告提出日は9月20日12時までといたします。発言は若い期の委員順、通告の質疑項目ごとに質疑は3回、1時間でやります。

よろしいですね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（今田佳男君） 以上で第4回決算特別委員会を散会いたします。

御苦労さまでした。

午後1時54分 散会